

沖洲地区 地震・津波避難支援マップ 説明書

平成 25 年 6 月
徳島大学・環境防災研究センター
田村 隆雄

この A 3 サイズの両面印刷された地図は、近い将来に発生が予想されている巨大地震によって発生すると予想されている津波から迅速に避難できるように、2013 年 6 月現在の基本情報（避難場所、避難路、主な地点の標高）と付加情報（危険箇所など）を、沖洲コミュニティ協議会、徳島大学環境防災研究センター、および徳島市が協力してまとめたものです。

このマップは避難マニュアルではありません。そのため先入観を与える浸水深・浸水域の想定値域を示していません。想定値域をご覧になりたい場合には徳島県ホームページ等をご覧下さい。

巨大災害に備えるためには「規模に関係なく、その時、その場所、その人にできる最善の行動を考える」ことが大事です。このマップは常日頃から『この場合はこうしよう、もしダメならその次は...』といろいろ考えるための材料（選択肢）を提供するものです。災害はいつ、どこで起こるか分かりません。災害が発生すると、限られた時間内での確で迅速な避難を行わなければなりません。それには日頃の「いろいろ考えておく」が重要になります。

避難場所や避難経路は地震、地盤沈下、液状化などによる破損・倒壊災害のほか、火災等によっても使えなくなる場合が発生しますので、複数の避難方向と避難場所、経路上の危険箇所を確認して下さい。実際に歩いて避難場所、経路、危険箇所の状況を確認しておくことをお勧めします。

今回のマップは“地域の地震・津波防災の始まり”です。今後は具体的な災害想定のもとで避難訓練を繰り返し行って『自分たちにできること（自助、共助）』を考えつつ、行政と協同して、より安全な避難場所や避難経路の整備等を進めて下さい。

【マップに掲載している主な情報】

- (1) **避難路**：主に安全な移動に適していると思われる道路で、幹線道路（主要県道）と比較的広く避難に使えるような生活道路を示しています。矢印は避難方向です。避難路と避難方向は目安であって強制するものではありません。
- (2) **津波避難ビル**：徳島市が指定している津波避難ビルのうち、3階建て以上のビルを表示しています。建物の名称と階数、及び3階以上の共用スペース（階段、廊下）に収容できる人数を示しています。例えば「○△マンション 11F (358)」の場合は、○△マンションは11階建てで、避難時収容人数が約358人と分かります。建物入口付近などに津波避難ビルのプレートが取り付けられています。
- (3) **一時避難場所**：24時間利用できなかつたり、耐震性に劣っていたりして津波避難ビルの指定は受けられないものの、津波来襲時に避難場所として使えるような3階建て以上の建物です。沖洲コミュニティ協議会が中心になって所有者の協力を取り付けました。
- (4) **その他**：主要地点の標高（海拔）、陸間、学校を中心とした500m円を地図上に記しています。

このマップに関するお問い合わせ先は沖洲コミュニティ協議会（沖洲コミュニティセンター）までお願いします。電話番号：088-664-7139